

平成27年度 行政評価 施策カルテ

施策名	1 青少年の社会的自立の促進
-----	----------------

施策主管課	子ども未来課	総合計画記載頁	119ページ
-------	--------	---------	--------

1 施策の位置付け

政策の柱	II 市民の学ぶ意欲と豊かなこころを育むために	政策名 (基本施策名)	12 健全な青少年を育成する	政策の達成目標 (基本施策目標)	青少年が、さまざまな人とのかかわりの中で、成長段階に応じた社会性を身につけ、心身ともに健康に成長し、社会の一員として充実した生活を送っています。
------	-------------------------	----------------	----------------	---------------------	--

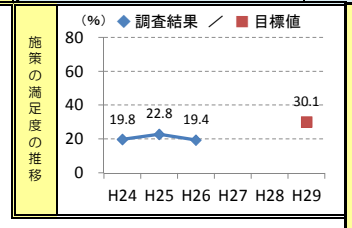
2 施策の取組状況

施策目標	青少年が社会の中での責任や役割を自覚し、主体的に活動しています。
------	----------------------------------

① 施策指標	指標名(単位)								評価	② 市民意識調査結果	指標名(単位)								評価		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (目標年)	H24 (現状値)	H25			H26	H27	H28	H29							
指標1	地域などでの社会的な活動に取り組んでいる青年(20歳代)の割合(%)		単年度目標値	14.2%	20.0%	25.7%	31.5%	37.2%	43.0%	C	指標2	施策の満足度(%)		調査結果	19.8%	22.8%	19.4%				B
	現状値(H24実績)	14.2%	実績値	14.2%	13.3%	9.8%															
	目標値(H29)	43.0%	単年度の達成度	100.0%	66.5%	38.1%															
③ 主要な構成事業の進捗状況 (主要な構成事業の個別の進捗状況は、「3 施策を構成する事業の状況」を参照)																		B			
① 施策指標	指標名(単位)		単年度目標値							【参考】中核市等との水準比較	指標名(単位)		H24	H25	H26	H27	H28	H29			
	現状値(H24実績)		実績値																		
	目標値(H29)		単年度の達成度																		
	中核市平均																				
	実績値																				
	中核市での本市の順位																				

※『①施策指標』の単年度の達成度の計算について

★ 通増型の指標(目標値が基準値より増加することが望ましいもの)	$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}} \times 100 (\%)$
★ 通減型の指標(目標値が基準値より減少することが望ましいもの)	$\frac{\text{目標値}}{\text{実績値}} \times 100 (\%)$



① 施策指標	A: 達成度90%超 [33点]	B: 達成度70%~90% [25点]	C: 達成度70%未満 [15点]
② 市民意識調査結果(満足度)	A: 前年度より向上 (+5pt超) [33点]	B: 前年度同水準 (±5pt以内) [25点]	C: 前年度より低下 (-5pt超) [15点]
③ 主要な構成事業の進捗状況	A: 計画以上 (主要な構成事業の2割超が計画以上) [33点]	B: 計画どおり (主要な構成事業の8割以上が計画どおり) [25点]	C: 計画より遅れ (主要な構成事業の2割超が計画より遅れ) [15点]
総合評価	順調: (A評価が2つ以上 (C評価がある場合を除く。)) [90点以上] 概ね順調: (主にB評価が2つ以上) [65点以上90点未満] やや遅れている: (C評価が2つ以上) [65点未満]		

取組内容と成果・成果の要因、進捗の状況		
---------------------	--	--

施策を取り巻く環境等	・国の研究機関の調査結果から、「思いやり」や「やる気」、「人間関係能力」などの資質・能力を高めるためには、幼少期から中学生までの様々な体験活動が必要であると言われている。 ・若者の育成環境や雇用環境など困難に陥る状況が多様化する中で、自立に困難を抱える若者は、引きこもり等の状態が長期化してしまいう傾向にあり、長期化した場合、本人には精神障害などの二次障害の発生が懸念されるため、自立に向けた早期的な支援に取り組む必要がある。	市民満足度	「キャリア教育推進事業」や「青少年自立支援対策事業」などの事業に継続的に取り組んできたが、若者の雇用情勢などによる社会的自立への不安が払拭できないことなどから、市民満足度については微減となっているものと考えられる。	総合評価	65点
施策指標	青少年の社会参加の促進や健全育成活動の推進により、若者は地域での活動に対する関心はあるものの、都市化による相互関係の希薄化や地域コミュニティの機能低下などにより、若者の地域活動への参加につながっていない結果となっていると考えられる。				概ね順調

3 施策を構成する事業の状況

※凡例 ○:「総合計画の戦略プロジェクト・主要事業」対象、★:「③ 主要な構成事業の進捗状況」対象(最大5事業選択)

No.	事業名	戦略P・ 主要事業 ※	事業が属する総合計画の 構成事業名	事業内容		事業の 進捗状況	H26 事業費 (千円)	開始年度	日本一 施策 事業	施策目標を達成するための取組方針
				対象者・物(誰・何に)	取組(何を)					
1	青少年活動拠点創出事業の推進	○★	・青少年の自主的活動の創出促進	青少年活動団体、青少年等	・青少年活動団体等が開催するイベントや青少年が実践する自主活動への支援	計画どおり	105	H23		青少年活動団体等が開催するイベントの支援を行うほか、ジュニア議員経験者による事業実践のための組織化が整ったことから、ジュニア未来議会提案事業の実施に取り組むなど、青少年の自主活動の支援を行う。
2	キャリア教育推進事業(再掲)	★	・社会体験活動の促進	市立中学校2年生の生徒全員	社会体験学習運営の支援(事業所による生徒受け入れ・保険・交付金等)	計画どおり	5,665	H14		「宮・未来キャリア教育」の推進にあたっては、指導資料を踏まえ、中学2年生の社会体験学習を中核として推進している。引き続き、民間事業所等の協力を得ながら社会体験学習を実施するとともに、今後は、本市ゆかりの職業人へのインタビュー等を取めたDVDを作成し、働くことの尊さや望ましい勤労観を育てていく。
3	宇都宮ジュニア未来議会の開催(再掲)	★	・宇都宮ジュニア未来議会の開催	中学生、高校生	・中高生による模擬議会の開催	計画どおり	120	H17		ジュニア未来議会への参加を契機に、参加者が次代のリーダーとして成長していけるよう、様々な事業や活動への参画につなげる。
4	青少年の居場所づくり事業の推進	○★	・青少年の居場所づくり事業の推進	小学生、中学生、高校生	・青少年の体験・交流の場の提供 ・主体的な活動ができる場の提供 ・異世代交流の機会の提供	計画どおり	1,538 (決算見込み額)	H19		地域が主体となる「青少年の居場所」について、地域ごとの現状や課題を分析し、青少年活動センター等の公共施設を活用した、青少年の利用しやすい居場所づくりについて検討・実施をする。
5	宇都宮市青少年団体連絡協議会の運営支援		・青少年育成団体の活動支援	青少年活動団体、青少年	・青少年団体活動の推進	計画どおり	150	S47		ジュニアリーダーの育成など、青少年の健全育成事業を推進するため、青少年団体連絡協議会の活動を支援する。
6	宇都宮市青少年育成市民会議の運営支援(再掲)		・青少年育成団体の活動支援	子どもとその保護者、地域、学校、企業等	・地区青少年育成会や青少年育成団体相互の連絡調整 ・市民総ぐるみでの健全育成活動の推進	計画どおり	3,805	H12		地区育成会や青少年育成団体で組織する市民会議の運営支援や連絡調整を行い、地域における青少年の健全育成を促進することにより、市民総ぐるみで健全育成活動を推進する。
7	青少年自立支援対策事業費	○★	・青少年の相談機能の充実 ・関係機関との連携強化 ・ニート・引きこもり対策の充実	・自立に困難を抱える青少年及び家族	・電話・来所・訪問・出張による相談 ・個別支援計画による自立の支援	計画どおり	252	H20		自立に困難を抱える青少年に対する支援について、青少年ひとりひとりにきめ細かな対応をするとともに、関係機関・団体との連携などにより幅広い支援を図るなど、就労等を目指した相談・支援機能を充実させる。

4 今後の施策の取組方針

今後の方向性	
<p>課題</p> <p>◆ 青少年が社会の中での責任や役割を自覚し、主体的に活動できるよう、青少年の社会参加機会や体験の場の機会の充実、将来の地域づくりを担う青少年リーダーの育成などを関係機関や地域団体などとの連携により、行っていく必要がある。</p> <p>◆ 若者の社会的自立に向けた困難状況が複雑化している傾向の中で、ニートやひきこもりなどの若者が自立に向かうことができるような支援策の充実のため、引き続き、関係機関・団体との連携を強化していく必要がある。</p>	<p>方向性</p> <p><施策全般> ◆ より多くの青少年の社会参加の体験の場の提供や機会の充実を図るため、「宇都宮ジュニア未来議会の開催」や「キャリア教育推進事業」の実施などにより、リーダーの発掘・育成などを推進する。 ◆ ニート・ひきこもりなど自立に困難を抱える青少年については、社会参加や就労等に向けて、引き続き、きめ細かな相談支援を実施していくほか、関係機関との連携により、より効果的な事業を展開していく。</p> <p><主要事業> ◆ 「青少年活動拠点創出事業の推進」については、外部関係団体・企業など、幅広い協力を得ながら、本事業を活用したジュニア未来議会提案事業の実施などに取り組む。 ◆ 「青少年の居場所づくり事業の推進」については、地域における既存の居場所について、地域ごとに現状や課題を分析し、市内の適正配置などについて検討をする。 ◆ 「青少年自立支援対策事業」については、総合相談窓口として青少年ひとりひとりにきめ細かな対応を図りながら、関係機関・団体のそれぞれの活動と連携し、就労等の自立に向けた相談・支援機能を充実させる。</p> <p><その他個別事業></p>